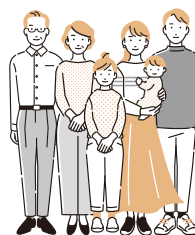


侵入強盗被害等から、入居者の安全を守るセキュリティ空間。

マモルバ

※商標登録出願中 ※特許出願中

日本の侵入強盗は過去10年間で件数が大幅に減少していましたが、2023年以降に再び増加傾向にあります。
特に住宅を狙った犯行が目立ち、
在宅中の住人を脅して金品を奪う手口などが多発。
その手口は凶悪性を増しています。



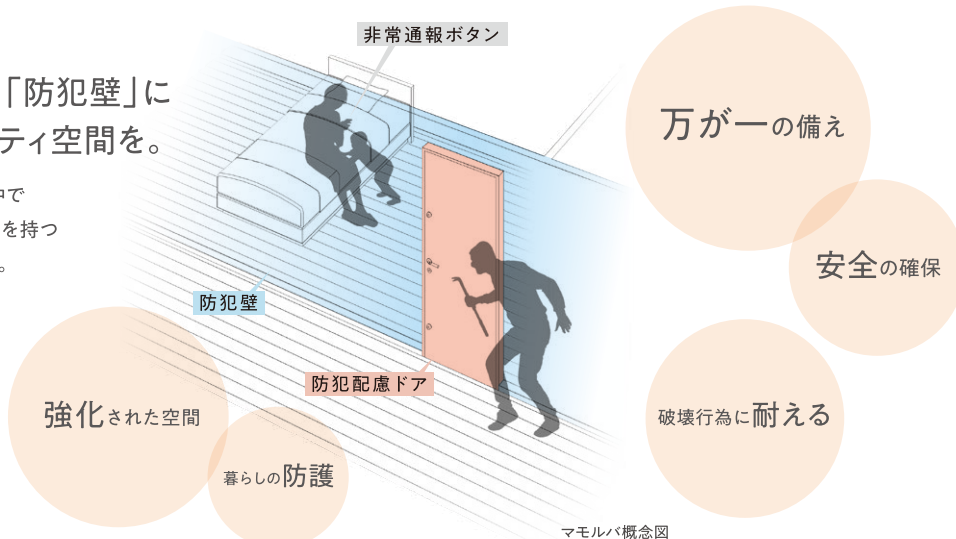
住まいの中にも
安心のスペースを

細田工務店は、安心・安全・快適な住まいを提供する長谷工グループの一員として、
深刻化する侵入強盗被害等から入居者の安全が図れる住まいを実現するため、「マモルバ」を開発しました。

《マモルバ》とは？

住まいの中に
「防犯配慮ドア」と「防犯壁」に
囲まれたセキュリティ空間を。

「マモルバ」とは、住まいの中で
守られている場所という意味を持つ
セキュリティ空間の名称です。



検証結果

破壊に対し8分間、抵抗できました。

※試験結果につきましては、すべての状況下において侵入を完全に防止することを保証するものではありません。

警察官が現場に到着するまでの平均時間は、
通報を受けてから8分24秒。
※令和4年度 警察白書より

耐久試験の
動画はこちら



開発背景

- ▶ 2023年以降、侵入強盗が増加傾向にある日本。
在宅中の住人を脅して金品を奪う手口も増加!!
- ▶ 2024年には、警察の認知件数が350件以上に達し、
凶悪性の高い犯罪が増えています。

マモルバ 3つのPoint

Point 1

防犯配慮ドア

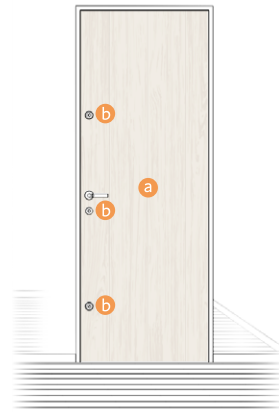
侵入方法となっている「こじ開け」は、バールを使ってドアとドア枠の隙間を広げ、かんぬき部分を露出させて解錠する手口です。特別な技術が不要で短時間でこなえるため、現在でもよく使われています。



- a バールやハンマーによる破壊に耐えるために、
複数の板を重ねて
破れにくい厚さを確保しています。



- b 鍵を合計3箇所を設置することで強盗の
侵入を一定時間防ぐことが可能となります。
ドアの外枠は強度に優れた鉄製枠を採用、
「こじ開け」がしにくい仕様になっています。



Point 2

防犯壁

侵入方法となっている「たたき割り」は、バールやハンマーによって壁を破壊する手口です。壁を壊すことで部屋に入ってきます。



- a 壁の下地には**強度の高い合板**を採用。
バールやハンマーによる破壊に耐えられる強度を持たせています。
また、強い壁はドアの外枠をしっかり固めることができるので、
こじ開け防止の効果をさらに高めます。



- b 壁を支える**柱の本数を増し、壁の強度を高めています**。
柱を増やすことで、壁に穴が開いても侵入しにくい構造としています。

Point 3

セキュリティシステム



入居者が「マモルバ」に逃げ込んだ際、通信手段がない場合を想定し、「マモルバ」内に**非常通報ボタン**を設置しています。ボタンを押すだけで、セキュリティ会社へ通報が届き、緊急対応スタッフが駆けつけるとともに、警察への通報もおこなわれます。

※[セキュリティシステムのご利用について] 細田工務店の分譲住宅では、警備開始日より3ヶ月間は無料でご利用いただけます。3か月を超えてご利用される場合は警備会社(セコム・ホームセキュリティ、東急セキュリティ)とのご契約が必要になります。

Pick up

安全基準をつくるための、耐久試験。

より安全な空間をつくる。私たちは、その想いをカタチにするために、木造の軸組に「木製防犯配慮ドア」を組み込んだモックアップを製作し、耐久試験をおこない、防犯配慮ドアと防犯壁の改良を重ねました。試験では「こじ開け」等による破壊手口に対して**8**分間抵抗でき、侵入を防ぐことを確認しています。

※耐久試験は「建物部品の防犯性能の試験に関する規則(平成15年7月28日 防犯性の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議)平成16年3月26日一部改正)」より、「建具の防犯性能の試験に関する細則(平成16年基準)」を参考に、バールとハンマーを用いた破壊試験を長谷工コーポレーション技術研究所にて実施しました。試験結果につきましては、すべての状況下において侵入を完全に防止することを保証するものではありません。



実際の試験の様子